審査員特別賞

みんなの小さな一歩の価値

那覇市立首里中学校　1年　安藏　征志郎

毎日大量に排出されるCO_2、大量のゴミ、進んでいく森林伐採。私達は自ら自分の住む地球という星を壊しているのだ。しかしその現状に多くの人が気づいていない。その事について関心を持ち、少しでも行動を起こさないと改善される事はない。僕の住む沖縄県では観光資源、そして海の生態系を支えるサンゴが急激に減少し、海の生態系が日に日に崩れ始めている。また、ごみ問題などで魚や海の生き物が苦しんでいて、少しでもそれについての関心を深めなければならない。

このゴミ問題によって海の生き物が苦しめられている事を実感した出来事がある。それは小学生の時から親しんでいる釣りだ。海で釣った魚を捌こうとするとハラワタの中から目に見えるサイズのマイクロプラスチックが出てきた。思わず大声で兄と父を呼んでしまった。その出来事は衝撃的で、プラスチックが出てきた瞬間を今でも鮮明に覚えている。多くの魚は口に入れるものはほとんど食べてしまう習性があり、おそらく食べ物だと勘違いして口の中にいれたのだろう。これにより初めてプラスチックが今、僕の大好きな海と生き物を苦しめている事に気付き、いつか海とその生き物を守る活動をしたいと思うようになった。

そこで５年前の夏、僕は友達と一緒に海の生態系を保つサンゴを守る活動を始めた。最初は海の環境を学び、サンゴの作りだすバランスの良い生態系について知った。そしてビーチクリーンや家庭から出すゴミを減らすなどの行動を続けていた。しかし、活動を始めて間もない時は、自分達ができる行動しかしておらず、周りに伝えるという行動は一切していなかった。海洋プラスチックゴミに詳しい教授に、「君達は自分達のできることを率先してやるのもいいけど、それよりも周りの友達に伝えて仲間を作って、更にできることを増やした方がいいのでは？」という様な言葉を投げかけられた。確かにこの数名が小さな事をやるよりも、大勢が小さな事を続けて成し遂げた方が、地球環境やサンゴに即効性のある貢献ができるのではないかと考えた。周りの人に関心を持ってもらう為、仲間と作ったサンゴクイズを解いてもらったり、全国で海の環境活動をしているグループ向けの助成金コンテストに参加し、その助成金で仲間とより大きな活動を行ったりした。例えば、ある児童館に協力してもらい、地元のシンボルである佐敷干潟について学び、そこで学んだ事を英訳付きの 30 ページ程の小冊子にした。その小冊子を図書館で貸し出し可能にしてもらえた時は、とてもうれしかった。そして地元の海に少しでも関心を持ってもらえるように努めた。みんなが少しでも自ら率先して行動するという行為が、今の課題を解決して未来に美しい海、そして美しい地球を残すことを可能にすると思う。これからも大好きな海を、それを支える地球環境を守る為の行動で、更に今ある課題の解決に近づけて行きたい。